



『武陽月報』は、武陽食品株式会社と株式会社J-オイルミルズが、酪農家・肉牛農家の皆様に役立つ情報をお届けするニュースレターです。

輸入脱粉 国産と価格差逆転 中央酪農会議

一般社団法人中央酪農会議によると、脱脂粉乳の輸入価格が、国産脱脂粉乳の流通価格を上回ったことが判った。国際相場が高騰している上、円安が加速していることが影響したとしている。

国産脱脂粉乳と競合する輸入調製品は依然割安なことから、国内の脱脂粉乳の在庫解消効果は現時点で限定的としているものの、国産品への需要が高まる可能性があるとしている。

脱脂粉乳の国際相場は、オセアニアや欧州の生産量が減少したことで需給が逼迫し高値が続いている。昨年までは1トン当たり3,000ドル台後半を上下していたが、今年はじめに4,000ドルを突破しており、5月には4,800ドル近い展開が続いている。直近では円安も加速しており、海外産脱脂粉乳を国家貿易枠で日本に輸入した場合、為替や関税を踏まえると、1キロ当たり760円前後となり、国産の大口価格の税込み704円を上回るとしている。

令和3年度生乳生産 2.9%増 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、令和3年度の生乳生産量は、764万6,519トン（前年度比2.9%増）と前年度をわずかに上回ったと発表した。

地域別には、北海道は431万1,496トン（前年度比3.7%増）と5年連続で前年度を上回った。都府県は333万5,023トン（同1.8%増）と、3年連続で前年度を上回った。全国が生乳生産量に占める北海道のシェアは56.4%、都府県は43.6%となった。北海

道が都府県を上回った平成22年度以降、シェアの差は拡大基調で推移している。

また、牛乳等生産量を区分別に見ると、業務用は30万1,264キロリットル（前年度比7.4%増）、学校給食用は34万6,662キロリットル（同5.7%増）と、いずれも前年度を上回った。一方、全体の8割程度を占める家庭内消費主体の直接飲用が254万8,859キロリットル（同1.5%減）とやや減少した。牛乳全体として見ると319万6,785キロリットル（同0.1%増）と前年度並みとなった。

生乳取引価格過去最高値を更新 EU

欧州委員会は、2022年3月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり43.48ユーロ（5,971円：1ユーロ＝137.33円、前年同月比23.6%高）と先月に引き続き過去最高値を更新したと発表した。生乳取引価格の上昇要因として、生乳の供給がタイトとなる一方で、中国からの輸入需要が強いこと、また、粉乳以外にも外食産業向けのチーズとクリーム需要が堅調であることが挙げられている。短期的には同価格の上昇傾向は続くとしながらも、獣医サービスなどの投入コストも上昇が顕著なことから、生産者の収益は圧迫されると見込まれている。乳製品在庫が減少する中で、第1四半期の生乳出荷量は前年を下回る見込みであり、乳製品の供給量の増加が見込まれないことで、今後も乳製品価格は高水準で推移するとしている。

飼料のご用命は

武陽食品株式会社

飼料部宮城営業所 飼料部福島営業所

東北第一営業所山形出張所 担当

3月牛肉生産前年同月比 1.4%増 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、令和4年3月の牛肉生産量は、2万8,541トン（前年同月比1.4%増）と前年同月をわずかに上回ったと発表した。品種別には、和牛は1万3,121トン（同0.7%減）と前年同月をわずかに下回った一方、交雑種は7,263トン（同6.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った。また、乳用種は7,672トン（同0.0%減）と前年同月並みとなった。

なお、過去5カ年の3月の平均生産量との比較では、7.8%増とかなりの程度上回る結果となった。

3月牛肉輸入年同月比 8.3%減 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、令和4年3月の牛肉輸入量は、米国産および豪州産の輸入量が現地価格の高止まりや入船遅れなどにより減少したことから、冷蔵品は1万6,860トン（同26.2%減）、冷凍品は1万7,016トン（同27.1%減）と、ともに前年同月を大幅に下回ったことを発表した。この結果、全体でも3万3,911トン（同26.6%減）と前年同月を大幅に下回った。

なお、過去5カ年の3月の平均輸入量との比較

でも、冷蔵品は26.4%減、冷凍品は20.2%減と、ともに大幅に下回る結果となった。

牛肉輸出停滞 オーストラリア

豪州農業・水・環境省は、2022年3月の牛肉輸出量は7万4,348トン（前年同月比10.9%減）とかなりの程度減少し、同年の第1四半期（1～3月）の累計でも17万7,223トン（前年同期比11.3%減）とかなり大きく減少と発表した。現地の報道では、第1四半期の輸出量は、過去10年間の平均値である24万1,000トンを27%下回ったとしている。牛群再構築による牛肉生産量の停滞に加え、新型コロナウイルスのオミクロン株感染拡大に伴い、一部の食肉加工施設で人員不足により生産に支障を来したことや、2月下旬から3月にかけての記録的な豪雨により物流が滞り、牛肉輸出の主要港となっているブリスベン港が一時稼働停止となったことなどが挙げられている。

最大の輸出先である日本向けは2万83トン（前年同月比0.2%減）と前年同月並みとなり、同年累計では4万6,529トン（前年同期比8.0%減）とかなりの程度減少した。

J-オイルミルズ ファイバーフィード 乳用牛・肉用牛飼育用配合飼料

ファイバーフィードは、大豆皮を主原料とし、ペレット化した混合飼料です。大豆皮はND F含量が高いにもかかわらず、リグニン含量が低いので消化性が高く、高エネルギーです。高繊維、高エネルギーの原料である大豆皮をふんだんに使用した、ファイバーフィードはJ-オイルミルズにしかない、独自の飼料です。

夏場の飼料給与には、粗飼料の不足を補い、第一胃内の発酵の安定させる、ファイバーフィードをお勧めします。



成分	原物中	乾物中
粗たん白質	14.0%前後	16.0%前後
粗脂肪	3.0%前後	3.4%前後
粗繊維	23.0%前後	26.4%前後
粗灰分	7.0%前後	8.0%前後
カルシウム	0.40%前後	0.40%前後
りん	0.15%前後	0.17%前後
T D N	65.0%前後	74.7%前後